

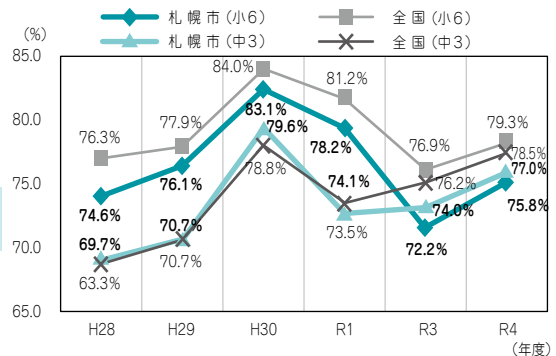
豊かな心の育成

子どもが互いを尊重し、支え合いながらよりよく生きようとする態度を育むとともに

- ・ 他者を思いやる心
- ・ 生命を尊重する心
- ・ 自然や美しいものに感動する心

等の**豊かな心の育成**を図ります。

「自分にはよいところがある」と思う子どもの割合の推移



<資料>文部科学省、札幌市教育委員会 (R2は調査未実施)

「道徳教育」の一層の

道徳教育は、学校の**教育活動全体**を通じて行うものであり、自立した人間として他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことをねらいとしています。その要として「特別の教科 道徳（以下、道徳科という。）」が位置付きます。

道徳科の実施に当たっては「**考え、議論する道徳**」の実現に向け、ICTを効果的に活用した学習活動の充実を図ります。

目指す子ども像等を全職員で共有

- 学校教育目標・目指す子ども像・重点とする道徳科の内容項目を全職員が共通理解
- 評価の視点の共有

学校段階等間の接続及び発達の段階に応じて、目標や指導内容を明確にすることで、学びの

幼稚園段階

- 自然などの身近な環境と十分に関わる中で得た感動を他の幼児や教師と共有し、豊かな感性を培います。
- 教師との信頼関係に支えられながら、自己を発揮する中で、他の子どもと試行錯誤して活動を展開する楽しさや充実感を味わうことができるよう、協同的な学びの機会を充実します。

○他の子どもとの関わりを深め、時には葛藤やつまづきを体験し、人に対する信頼感や思いやりの気持ちなどの道徳性を培います。

○よいことや悪いことに気付かせるとともに、考えながら行動する力を育み、規範意識を培います。

小学校段階

- 文化や芸術、自然の素晴らしさを直接体験する取組を充実させ、思いやりの心や美しいものに感動する感性を育みます。
- ありのままを認め、よいところを褒め、伝えていくことで自己肯定感を育みます。
- 他者から認められる機会を充実させ、役に立っているという自己有用感を育みます。

道徳教育

- 低学年：優しい気持ちを大切にするとともに、物事の善悪について、理解を進めます。
- 中学年：内省できる力を育むとともに、自分のよいところを伸ばそうとする意識を高めます。
- 高学年：相手の立場に立ち、思いやる心を育むとともに、自己に対する肯定的な自覚を促します。